月刊
あじぇんだ 1月
2010年
京のアジェンダ21フォーラム　事務局通信
月刊あじぇんだは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

京のアジェンダ21フォーラム事務所
〒612-0031
京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター2F 活動支援室内
TEL：075-647-3535
FAX：075-647-3536
E-mail：ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp
開室時間：8時45分～17時30分（木・日休室）
アクセス：京阪電車「藤森」西へ徒歩5分
地下鉄・近鉄「竹田」東へ徒歩13分
市バス・京阪バス「青少年科学センター前」南へすぐ

「DO YOU KYOTO?」ロゴマーク

幹事リレーコラム

温室効果ガス大幅削減に向けて、フォーラムはどう取り組むか

フォーラムでは 2009 年度事業として、温室効果ガス大幅削減（京都市の環境モデル都市行動計画では 2030 年までに 90 年比 40％削減、2050 年までに 60％削減）実現に向けた「中長期展望の策定と、そのための具体的な方策の検討」プロジェクトを、フォーラム幹事の参加のもと実施しています。フォーラム設立 11 年目を迎えた今、社会の地球温暖化防止についての意識が高まり、各主体による取組も活発にされるようになってきています。国も 2050 年までに 90 年比で温室効果ガス 80％削減目標を打ち出しました。このような社会の状況に合わせて、フォーラムのあり方、活動内容や方法も見直していくことが必要です。

そこで、このような背景を踏まえて、プロジェクトにご参加いただいている幹事に、望ましい京都の未来像を目指すに当たってのフォーラムの今後の役割、あり方などについて、寄稿をお願いしました。第 2 回目は、小幡範雄フォーラム幹事長です。

【イラスト：京のアジェンダ 21 フォーラム入会案内「京のアジェンダ 21 フォーラムが目指す京都!」より】

第 2 回　今こそ持続可能な社会実現に向けた、戦略的で実践的な方向性を示すとき

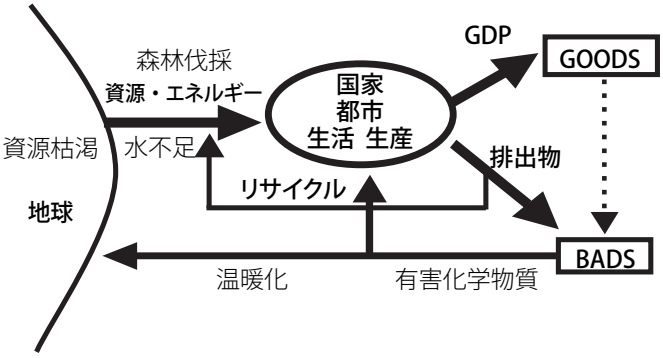
京のアジェンダ 21 フォーラム 幹事長　小幡範雄（立命館大学政策科学部　教授）

京都市の中長期目標では 2030 年までに 90 年比 40％削減、2050 年までに 60％削減を掲げている。このような目標達成のシナリオはバックキャスティングで描くことが大きな意味を持つことは、第 1 回のコラムに内藤代表が書かれている。また削減対策もあらゆる分野にまたがって提案されている。

京のアジェンダ 21－環境と共生する持続型社会への行動計画（1997 年 10 月）を作成する段階でも 40 ～ 50％削減が必要である、実行力のあるパートナーシップづくり、まち全体がエコシティになるような提案など多くの議論を重ね、時には激論もしながら取りまとめを、極めて短期間で実施したことが思い出される。これが出発点である。この出発点からもう一度、脱温暖化の実行を伴う計画・プログラムを作成することも大切になる。

COP15 では、温室効果ガスの排出量の削減目標などをめぐって、発展途上国と先進国の対立も解けず、十分な政治的合意が得られないまま閉幕した。果たして、地球環境に対するリスクは、温暖化だけであろうか。現在、提案されている持続可能性指標で現状を見ていき、今後の活動の方向性を考えてみたい。

【図 1：インプット・アウトプットモデル】



都市活動や国家、地球での活動は、図 1 に示すインプットーアウトプットモデルで説明できる。インプットは資源・エネルギーの投入であるが、2005 年～ 2020 年の間に原油の需要が供給を上回るというピークオイル問題の発生が言われている。日本から見れば、資源のない国であり、多くの原油を輸入に頼り、食料自給率は 40％（1965 年は 73％）である。耕作放棄農地の面積は増え続けている。農産物の輸入に伴う見かけの水の輸入量はバーチャル

ウォーターと呼ばれ 640 億㎥／年であり、日本国内の年間灌漑用水使用量 590 億㎥／年より多いものとなっている。また、フード・マイレージ（「食料の (=food) 輸送距離 (=mileage) 」という意味。重量 × 距離（たとえばトン・キロメートル）であらわす）でみれば、食品の生産地と消費地が近ければフード・マイレージは小さくなり、遠くから食料を運んでくると大きくなる。2001 年農林水産省の試算によると、日本の自給率の低さが原因となって、日本のフード・マイレージは、図 2 に示すように総量では世界中で群を抜いて大きく、国民一人当たりでも一位となっている。

【図 2：各国のフード・マイレージ】
出典：農林水産省資料　※単位：トン × キロメートル

国名	総量	国民一人当たり
日本	9002 億 800 万	7093
韓国	3171 億 6900 万	6637
アメリカ合衆国	2958 億 2100 万	1051
イギリス	1879 億 8600 万	3195
ドイツ	1717 億 5100 万	2090
フランス	1044 億 700 万	1738

エコロジカル・フットプリント（EF と略す）とは、人間経済活動による資源再生・廃棄物浄化サービスに対する需要量に着目し、その需要量を生態系が持続的に満たすと仮定した場合、必要とされる生態系面積の合計であり、gha（グローバル・ヘクタール）という面積換算で表す。人類の EF の世界総計は、1980 年代後半から、地球の限界 (世界生物生産力) を超え、年毎に増え続けている。

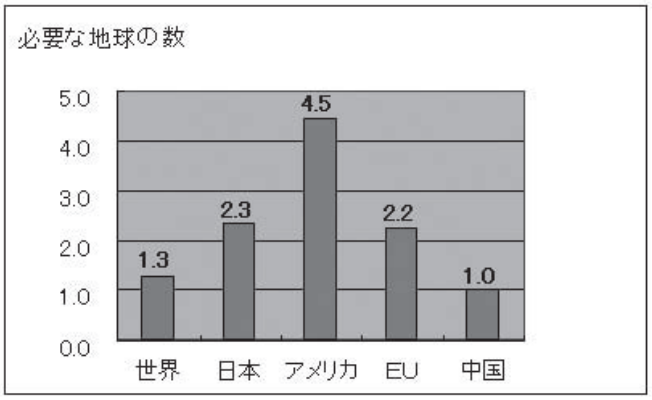
図 3 に示すように、1 人当たりの FE を国別に見れば、アメリカは 9.4gha で、全世界の人がアメリカ人のような生活をすると、地球は 4.5 個必要になる。日本は 2.3gha で、同様に、地球が 2.3 個必要になる。中国は 2.1gha で、現在の地球の持っている生産力水準と一致しており、中国のような暮らしであれば全世界の人が暮らせることになる。しかし、大半の国々は全世界の平均値を下回っており、貧しい生活をしていることなる。

もう既に、地球資源は限界に近づきつつある。求められる脱温暖化、低炭素社会は私たちにどんな暮らしをしたいのか、あるいはするべきなのかという大きな選択を迫っているのである。インプット側の資源投入を減少させ、アウトプット側の二酸化炭素の減少ということを考えれば太陽光発電などの自然エネルギーの活用が最も有効であろう。そして、まち全体のエネルギー消費も減少させる必要がある。どこまでならインプットとアウトプットの量が削減でき、かつ楽しく暮らすことができるかも合意を図っていかなければならないだろう。

削減メニューは内藤代表が示したように非常に数多くある。これらのメニューだけを示して何でも良いですから市民生活で減らしてくださいと言うのはいささか無責任である。ビジョンないし目標を示さなければ、行動選択はなかなか起こらないように思われる。

例えば、スローライフなまち・京都のような目標を掲げ、経済成長を絶対的な目標としなくても十分な豊かさが達成されていく「定常型社会」が可能なのかを議論し、環境関連団体や市民、事業者、行政の集まりである、まさに対等な関係で結ばれたアジェンダフォーラムが知的で戦略的な方向性を示すときがきていると思う。

【図 3：各国のエコロジカル・フットプリントから見た必要な地球の数】
出典：LIVING PLANET REPORT 2008 より作成



バスと電車で eco グルメ！　第二期キャンペーンがスタート

期間　1 月 5 日（火）～ 4 月 30 日（金）

地球温暖化防止のため、市民や観光客の皆さんに、マイカーではなく公共交通を利用してもらい、また飲食店には環境配慮の取組をしていただくために、第二期のキャンペーンを開始します。この冬は、公共交通を使って、協力飲食店でお得に飲食をしてください。※詳しくは同封のパンフレットをご参照ください。

フォーラム活動を支える会員

「家庭の省エネ相談所」の屋台骨
省エネ普及ネット・京都　事務局長　山本和仁さん

フォーラムでは今年度、家庭での温室効果ガス削減を目的に、「家庭の省エネルギー対策プロジェクト」の一環として「家庭の省エネ相談所」を区役所・支所や商業施設等で開設しています。相談所開設を中心になって担っておられるフォーラムの団体会員「省エネ普及ネット・京都」事務局長　山本和仁さんにお話を伺いました。

Q.1「省エネ普及ネット・京都」の紹介をお願いします。

省エネ普及ネット・京都は、2007 年 10 月に、地球温暖化防止のために、仲間と交流する中で省エネの知恵を共有し実践につなげ、取組をより多くの市民に広げていくことを目的に設立されました。現在、会員は約 28 名。「家庭の省エネ相談所」開設のほか、月に 1 回、テーマを設けて省エネに関する研究会を開催しています。

Q.2　山本さんが環境に取り組むようになったきっかけについてお話しください。

私が環境に取り組み始めたのは、今から 10 年ほど前のことです。当時勤務していた建築設計事務所で、建築に伴い大量に排出される産業廃棄物を削減するための委員会のメンバーになったことがきっかけでした。学校や病院におけるエコ・マテリアル（高品質で、人にやさしく環境負荷の少ない素材）使用の推進や、シックハウスを防ぐためのガイドラインの作成などに取り組みました。当時は、まだ社会の環境への意識が低く、施主さんの理解が得られないなど随分苦労もしました。

Q.3「省エネ相談所」にはどのような経緯で関わるようになったのでしょうか？

退職する少し前に京エコロジーセンターの環境ボランティア「エコメイト」になり、家庭での省エネ普及活動に取り組むようになりました。「環境家計簿サークル」に入り、定期的に集まって、家庭で使用する電気・ガス・水道などの使用量をチェックする環境家計簿や、省エネのアイデアについて情報交換や学習会を行いました。その後、内部で培われた省エネ術やノウハウを市民にも伝えようと任意団体「省エネ普及ネット・京都」を立ち上げて省エネ相談所の運営に携わってきました。

Q.4「家庭の省エネ相談所」の課題や、今後の展望についてお話しください。

これまで 3 年間「家庭の省エネ相談所」を開設してきましたが、相談に来られる市民の環境意識は、随分高くなりました。オール電化の家庭も増えてきたのにつれて、今後は私たちアドバイスをする側も、その知識を身に付けるなど、レベルアップをしていく必要があります。フォーラムでは新規のアドバイザー養成研修会の中で実地研修を 2 回行っていますが、例えばそれを 4 回に増やしたり、皆で新しい省エネグッズなどを家で実際に使用してみて評価していくことが必要に思います。

また、将来は相談所のサテライトをスーパーや区役所等に設置して、いつでも市民が相談できるような体制を作っていくことができれば良いと思います。それにはアドバイザーの増員と養成の場を確保していくことも大切です。

省エネ相談所は、家庭の省エネに効果のある取組だということで京都府外の自治体からも注目されており、しばしば事例紹介の依頼があります。国は温室効果ガス 90 年比 25%削減を打ち出しており、もしかすると 3R 検定のように、家庭の省エネアドバイザーにも検定制度ができ、全国的に広まることになるかも知れません。

Q.5　最後に会員の皆さんに、この冬お勧めの家庭でできる省エネ術とメッセージをお願いします。

毎年、冬の初めに京都の実家で実践しているのが、塗装用の養生テープを使っての隙間風の目張りとガラス用の保温シート貼です。テープと保温シートはホームセンターでそれぞれ 100 円、700 円程で購入できます。部屋の保温効果が非常に良くなります。使用後に剥がしても後が残らず、意外と簡単にできるお勧め術です。

今後は政府から温暖化対策の施策がいろいろと出てくると思われますが、家庭を含めたあらゆる部門での取組が必要です。近くで「省エネ相談所」が開かれていたらぜひのぞいてみてください。

■　「省エネ普及ネット・京都」では、会員を募集しています　■

年会費 1 口 1,000 円。問合せ・連絡先：山本さん（TEL　090-9874-0328）

2009 年 12 月 9 日（水） KESC 市民共同おひさま発電所づくりチーム
保育園で環境学習を実施　専門誌の取材も受けて活動を PR

京都環境コミュニティ活動（KESC）プロジェクトの市民共同おひさま発電所づくりチーム（略称：おひさまチーム）では、事業者の CSR の一環として、自然エネルギー利用の普及拡大のため、市民共同おひさま発電所づくり（市民が参加する形で、保育園等に太陽光発電パネルを設置する取組）への寄付や保育園での環境学習の実施、環境イベントへの体験ブースの出展などの活動を行っています。

今回は、昨年度に引き続き伏見区醍醐のつくし保育園で地球温暖化を題材にした環境学習紙芝居「白クマのコロスケ」の上演と、太陽光や手回し発電機で動く玩具の実演を行いました。園児達は地球温暖化について学び、自然エネルギーで物を動かすことを体験しました。紙芝居上演中の園児とメンバーのやり取りも楽しい雰囲気のなかで進行し、園長先生からは、「昨年に比べて、紙芝居の上演が上手になられました。」とのコメントをいただきました。

紙芝居の製作や準備から、実施当日までを含めて、参加メンバーは本来の業務と KESC 活動を両立させ、地域の環境活動への貢献を行っています。当日は、地元新聞社と物流業界向けの専門紙の取材もあり、外部の関心を集めるなどの成果が出てきました (同封の新聞記事参照)。

おひさまチームでは今後も中小事業者による CSR 活動の先進事例として、環境教育を通して地域と連携した地球温暖化防止活動を進めて行きます。

【紙芝居に見入る園児たち】

【「白クマのコロスケ」の一場面】

【園長（右端）より紹介される参加メンバー】

【実施メンバー（順不同敬称略）**】**
チームリーダー　山本龍太郎（公栄運輸株式会社）
メンバー　笠井文雄（公栄運輸株式会社）、川阪益造（京都電測株式会社）、竹田利幸（科研製薬株式会社）、芝田春雄（市民）

新スタッフ自己紹介

1 月より、新しく事務局コーディネーターが就任しました。
よろしくお願いいたします。

はじめまして、奥井祐子と申します。私は企業の環境活動の一環として小学生向けの出張授業で水の大切さや、水の面白さについてお話させて頂いております。水の事だけでなく、環境、食育などについてもっと知識を深められたら、と思っております。

生まれ育った京都が大好きです。京都の美しい文化や環境などを守りつつ、次世代の子供達にもうまく受け継ぐ事ができたらとも思っております。

皆様からもご教示いただきながらひとつずつ頑張って行きたい所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局からのおしらせ

事務局長の西本は 1 月より事務局コーディネーターへ異動しましたのでお知らせいたします。

事務局短信　日頃「地産地消」を推奨している以上、実践しようと仕事帰りに寄るスーパーの地場物野菜コーナーはいつも売り切れ！でも、価格よりも、産地を優先して選択した買い物する意識のある人が増えていることを嬉しく思います。環境にも健康にも良い商品が増えることを目指して、今年も活動していきましょう。（西本雅則）／年末は、窓ガラスは新聞紙で、台所は重曹で大掃除。洗剤を使わなくても窓ガラスがピカピカになり、新聞紙パワーに感激。昔の人の知恵は素晴らしいですね。本年もどうぞよろしくお願いいたします。（小山直美）／新年早々うかない話…最近のテレビ報道で、アメリカでは洗濯物を乾かすのに乾燥機を使うのがあたりまえ（家の外に干すのは貧民層とか）で、それが「文化」であると言うから驚き。今日、世界的規模で地球温暖化、ＣＯ2 削減に向けて懸命な取組がなされている一方でこれと逆行する大量消費の「文化」、ため息をついてしまいます。（小西賢人）